

F-5 家庭経営の変動に関する生活史的研究 (実態と理論との検索, その二)

— K家を例として —

家政学総合研究会生活史班 代表 郡山女大家政 関口富左

目的 変動理論の構築と調査を基とした実態について、変動因子とその法則性設定の是非を、実態と照合検索する一方、主題設定よりみて実態調査の内容方法の是非を、理論より検索し、研究の妥当性を検するもので、今回は、さきに調査検討をした、K家の家文書の生活実態の分析を例としたものである。

方法 同班発行オ一報およびオニ報の澳題主名誌のK家の生活記録、「家計の推移」「家計簿による家計構造の推移」について、同誌オ一報における理論内容とを以て照合検索する。

結果 実態よりみた理論の検証。(1) 農業災害および社会経済的な変動に大きく左右され農業所得の増減や、家計の増減傾向をきたしている。⇔ 要するに農業災害は特に天候等に影響されることが多く、変動因子としての自然現象(N変動因)である自然的変動因と時間性により変動が生ずるとしている理論と一致する。(2) 家計費は家族周期と関連して大きな変動がみられる。また消費構造や、消費内容の量的変化がみられる。⇔ 変動因の分析からみれば、この実態は、家庭内諸要素としてあげた①～⑤における③及び④にかかわるもので、原変動因でなく二次変動因(F変動因)の時間性による変動である。家庭経営変動の法則性の仮説として「家庭内要素因の相互的時間性において変動は生起し……」にあたる。また、(1)に検した自然的変動因はさらに社会的変動因を誘発するので、「……加えて外部空間間の変動の波及的相乗作用により増大する」に連結する。現象的家庭経営上の変動と、変動理論は包括的にみて妥当性が認められ、主題と調査もまた妥当。